

意見交換会顛末（医療・福祉・子育て等分野）

令和7年11月17日 18時00分～20時00分

◎名寄市の発言

時間作っていただき感謝。

名寄市総合計画（第3次）策定の参考とさせていただく。

今回はキックオフとなる。

せっかくの機会なので、堅苦しいかたちで行うのも勿体無い。

役所職員が囲む形となるが、気にせず発言をいただきたい。

それぞれの団体で感じている課題やまちづくりに関する意見など伺いたい。

■参加者の発言

団体としても色々な問題を抱えている。美深の高等養護学校に通う方のバスがない課題があったが、協議をしてバスを出してもらえることになった。

何かをやる時はみんなで話し合ってやっていくことが必要。

■参加者の発言

社会福祉協議会の活動は、訪問介護をはじめとする介護部門と地域福祉の2つに分かれる。介護部門はニーズがあるが、人材不足などある。自分の団体の活動としては、地域福祉の実践が最初にあがる。イベントなどを通じて福祉のプラットフォームになることが必要。市民の方に触れる機会を増やしていくことも必要。

イベントを通じて、町内会でボッチャが行われたりしている。

団体としてお金がないということが課題で上がるが、お金をかけずに機会を作っていくことも必要であり、コミュニティや交流の場を作っている。このような活動が活発なところが素晴らしいまち・横のつながりが盛んで暮らしやすいまちにつながる。ハードでなくソフト面を進めていくことが必要。

■参加者の発言

自分の団体としては、高齢者は増えるが、会員は減っている現状。年々90人前後の減少となっている。健康の増進の取り組みを行っており、自分は2年しかまだ携わっていない。身近に健康寿命を伸ばすことが必要。ボッチャやモルックは盛んだが、パークゴルフ・グランドゴルフの競技人口は減少している。会員の平均年齢が80歳弱である。総合計画策定も意識しながら活動についても考えていかなければならない。

■参加者の発言

70歳まで現役で働く人が増えていて、以前までは60歳から時間がある人が多かったが、今は組織の形態が変わってきている。活動についてはモルックやボッチャなど形を変えながら行っている。会長のリーダーシップのもと、ゆるやかに集まる会なども企画している。前まではかっちり企画を決めていたが、今は形を変えている。

■参加者の発言

人が少なくなると大きな企画はできなくなっている。原点回帰し、集まりやすい雰囲気づくりを行っている。

■参加者の発言

先日、名寄の地方創生会議に出た。いま名寄市は人口2万5,000人弱、いずれ2万人を切る。このことを想定して、取り組みを考えていく。お金をかけないで、今いる人材を活用してできることを行っていくことが必要。

小児科・産婦人科があるまち。安心して産んで、安心して死ねるまち。を目指す。

医療を有効に活用して、多くの方が来るまちが良い。

札幌市が一番高齢者が集まるまちだと日本経済新聞に掲載されていた。移住者が多い。

名寄市の資源を有効に活用して、少しでも名寄市立大学生に残ってもらうことが必要。

インバウンド、外国人の介護人材に来てもらうことも人口減の対策になる。

事業承継もキーワードになる。

またスタバがあれば戻りたいと言っている人もいる。

映画館・ボーリング場を望むというアンケート結果もあった。

◎名寄市の発言

圏域の医療でいうと、上川北部が一つの医療圏域であるが人口は10万人いない。医療構想のラインとして考えているのが、2次医療圏は20万人を考えている。この考えでいくと北海道の医療圏が該当しなくなっていく。そうなると一つの医療圏が膨大な面積となる。しょっちゅう耳に思うと思うが、病院経営は大変厳しい。国がしっかり支えてくれないと、厳しい。市としていろいろな形で要望している。医療機関が存続し続けなければならない。

医療は撤退線に入っている。早めに撤退すると勝ちと言われる。そのような中でこの地域の医療を守っていくか関係する方々で頭を悩ませている。

■参加者の発言

平均寿命は伸びるが、健康寿命が伸びない。後手後手に回すと認知症も増える。食事と運動も大事。人材を上手く使っていく。官民一体となって危機感を持ちながら進めていく必要がある。

■参加者の発言

美深で行われた会議で、和寒の方と雑談した。今後人口が減少していくので、既存の規模よりも少なくした形で介護施設を改修していく必要があるという言い方をしていた。今後施設数などはどうなっていくか。増えていく高齢者の全員が施設に入ると保険料がとてつもなく上がる。家で生活をしたいという方に向けた在宅介護の維持をしていかないといけないが、そのバランスを考える必要がある。

社会福祉協議会は以前最大で 60 名のヘルパーがいたが、今は 20 名を切った。

在宅介護の柱であるヘルパーの数が減っている。

人材不足については、賃上げが追いついていかない。今前倒しで議論をしているが、飲食アルバイトの方が介護者よりも給与が高い現状がある。選ばれる業種になっていないことに難しさを感じる。どうしても臨時職員・パート職員の雇用になってしまっている。名寄市立大学の卒業生が社会福祉士になるのは半分以上。学生の話を見ると、合格するまで名寄市の場所を知らず、たまたま 4 年制大学なので来た程度という声も聞く。

4 年制大学卒業を目的で来る人もいる。

一番重要な介護福祉士の取得をできる環境がない。なかなかそこに着手できていない。

介護福祉士については全国的にみると入学生がおらず閉鎖された学校もある。

最低賃金で来る外国人はいない。外国人の雇用制度をお膳立てしたからどうぞと市に言われても、手を出したくても出せない状況もある。

福祉経営の大規模化の話もある中で、小さな事業所がどうするか考えさせられる。

居場所づくりについて、名寄市で集まっている会などがあっても一般市民に知れ渡っていないことがある。魚を捌く会・プラ寝たリウムなど全く知らなかった。せっかくやっているのにその情報を得る手段が少ない。名寄市の LINE の活用、同一ツールを使った情報発信。活動の発表会などを行ってもいいと思う。地域でサロンをやっているところや縫い物などをしているところもある。既存で集まる場所がある中で、もっと情報発信を行なっていく必要があるのでは。

健康寿命を伸ばすなら外に出ないといけない。外に出るにはリスクもある。みんなの感覚自体を変えていかないと、口で健康寿命と言っても絵に書いた餅になりかねない。

■参加者の発言

官民連携が必要と思っている。自分は70代であるが、70代以上の方と関わる機会が多い。老人クラブも人は減少、近所も空き家が多くなってきた。名寄の施設に入る方もいれば、札幌に行く人もいる。お金がないと施設に入れない。健康でいなければならぬと日々感じている。自分もそのような気持ちで、情報共有をしてやっていかなければと思っている。近所には学生も多い。学業やアルバイト、実習などで忙しそう。名寄市の良い働き手になっている。名寄市の学生は素晴らしいと感じる。

■参加者の発言

町内会でフレイル予防を行なった。座りながらできる運動など自分の現状を維持できる活動をする。その大切さの話をした。こどもの食育のこともやっているが、コロナ以降は文化センターの調理室しか使えない。その影響で事業展開が設備的に難しい。もう少し使える場所を作ってほしい。学校と連携した活動について学校のカリキュラムが春に決まるので、なかなか学校の授業に入ることも難しい。大学でやったこともあったが、その当時と先生も変わっており、なかなか声をかけられない。

■参加者の発言

人材不足だと感じる。実習で名寄に来るが、就職は札幌など。名寄市に帰ってくる人がいないと感じる。甥が現在中学3年生。名寄高校に進学する子が少なく、旭川に行く子も多いと聞く。その年齢から名寄市を離れると、戻ってもらうのも難しいと感じる。自分の時と違って、学校選びに制服や部活動など多様化しており、なかなか理解できないという部分もある。

■参加者の発言

昔は名寄高校に進学するのが当然だった。高校のレベルもあって、親は旭川・札幌に行かせるということも聞く。名寄高校の意義がなくなっている。

■参加者の発言

民生委員について定員割れする自治体がある中で、全ての枠が埋まっているのは珍しい。民生委員が何をやっているか把握されていない。あくまでボランティアなことが多い。民生委員の活動について、町内会や市からの情報を得て活動を進めている。情報の共有をしないといけないが、プライバシーの問題などで情報の収集が難しくなっている。最低限の情報の共有だけでもしてもらえないといけないと思っている。民生委員がいなくなると市も困るのではないかと思う。名寄市は連携は取れていると感じているが、もう一步情報共有が進むと活動が行いやすくなると思う。民生委員の活動の紹介も必要だと感じる。

■参加者の発言

老人クラブと民生委員の連携はとても重要だと感じている。

■参加者の発言

精神状態の良くない方の情報を民生委員に共有をしていた。このようなつながりが重要に感じる。

■参加者の発言

家に来なくてもいいという方もいる。新聞の取り出しの状況確認だけでも、見守りになると感じている。

◎名寄市の発言

民生委員について国家公務員であり守秘義務がある。必要な情報のやり取りをすることもある。負担のない範囲で協力いただき、情報を使いやすくやり取りするのも重要。市の中に専門職もいる。市の活動として知っていただくのも必要。てく TECH も介護予防の取り組みの一つで、行動変容して歩くようになった人もいると思う。そのようなことも知ってもらえる情報発信も必要と思う。

◎名寄市の発言

本日は、名寄幼児教育・保育振興会の方が急遽欠席となった。子育て分野への提案についてあるか。

■参加者の発言

子ども向けのイベントの情報を知らず、実施後に知ることが多い。

■参加者の発言

名寄市は住みやすいまち。小児科もある。広報で宣伝されてると思うし、名寄新聞・北都新聞などの新聞社もある。（部数減っていると思うが）あるものを使うのが重要と感じる。

■参加者の発言

LINE・HP・広報などあるが、発信はどこまでやってもキリがないし、興味のない人は来てくれない。メディアの話題になるようにどうするか考えている。少しでも情報を拾ってもらえるように気をつけている。自分の団体のイベントでは学校で配ってもらって一声かけてもらうから集まることもある。

■参加者の発言

今の子供は自分たちから見るとずいぶん忙しいと感じる。（部活など）
社協が小学生と老人クラブの交流事業を行ってくれている。徐々に増えると嬉しい。

■参加者の発言

自分の団体では、小学生のうちに車椅子体験など触れ合う機会をつくることも行なっている。

■参加者の発言

会社で子育てしている人が4～5人いる。前回の総計策定時にも話したが、日曜・祝日に保育所に預けられず、事業所活動にも影響が出ている。市立大学の保育学科を4年制にしているにも関わらず、保育が停滞している環境で何を学べるのか。経済活動を止めないくらいの馬力がないといけないのでは。子育ての課題は年齢が上がってくると無くなってくる。数年間の課題なので、5年後だと自分の事業所では解決しているかもしれないが、どこかの企業で困ることになる。

■参加者の発言

成年後見制度について、10名を超える方が利用している。
今後も増えていくことが想定される。名寄市でも福祉の中の大事な柱として認識していただきたい。

■参加者の発言

名寄市で行う活動は色々な部署が絡んでくる。何かあった時は市役所に相談をすることが大切。名寄市は全て網羅している。町内会の回覧も活用してほしい。広報も大事だが、回覧板を活用することも重要。